

## コロンビアの最新動向(5月1日～5月15日)

### I. 政治・経済

#### 1. 中央銀行が預金準備率を引上げ

- 5月6日、中央銀行は預金準備率の引上げを発表した。5月7日以降、民間金融機関の①当座預金(13%→27%) ②普通預金(6%→12.5%) ③定期預金(2.5%→5%) が準備金として引当てられる。
- 今回の預金準備率引上げの主な目的は、住宅ローンや消費者金融部門の貸出需要を抑制し、インフレをコントロールすること。

#### 2. 地方交付金制度の改革法案を上院が可決

- 5月10日、コロンビア上院で地方交付金に関する改革法案が可決された。今回で6回目となる審議(上院)が終了し、6月末終了の今国会で改革法案が成立するためには、下院での2回の審議を残すのみとなった。
- 中央政府は現在、地方交付金として国家税収増加分の約50%を各自治体に分配している。改革法案が成立すれば、交付金の支払いに限度額が設けられ(税収増加分の5%にインフレ率を加算した金額)、超過分は中央政府の収入となる。

#### 3. ペソが7年来の高値を更新

- 5月15日、ペソは2000年4月以来の最高値を更新した(15日終値1,996.3ペソ/米ドル)。中央銀行がさらに利上げを行うとの観測から、長期的な海外投資が増大しつつある。中央銀行によれば、コロンビア向け海外投資(2007年1月～4月)は前年同期比58%増の22億ドルであった。
- 中央銀行は5月6日、投機的な資本流入を制限する目的で、新たに海外から借り入れを行う場合、調達資金の40%を6ヶ月間、無金利で中央銀行に預け入れなくてはならない、という政策を発表している。
- 今後もペソ高が続けば、政府が更なる資本規制に踏切る可能性もあると、アナリストや市場関係者は警戒している。コロンビアでは2004年12月から2006年6月にかけて、ペソ高抑制策として、海外からの投資家に対し1年間の預け入れ義務を課す資本規制を行っていた。

## II. 外交

### 1. ウリベ大統領、米国を訪問

- ウリベ大統領は 5 月 2 日から 3 日間米国を訪問し、FTA とプラン・コロンビア II における軍事支援に対する米国の議会承認を求めるロビー活動を行った。
- ウリベ大統領は、ブッシュ大統領と面談した他、ナンシー・ペロシ米国下院議長(民主党)、民主党議員、人権団体などを訪問した。
- ブッシュ大統領は、ウリベ大統領の功績を評価し、今後も協力していく旨を約束したが、多くの議員や人権団体の対応は、パラミリタールとコロンビア国会議員の関係について懸念するなど、冷ややかなものとなった。

### 2. 米国務副長官がコロンビアを訪問

- 5 月 8 日、ネグロポンテ米国務副長官がコロンビアを訪問し、報道陣に対し、米国政府は FTA 批准に向けて最大限の努力をすると述べた。なお、ネグロポンテ国務副長官はコロンビア訪問後エクアドル、ペルー、パナマも訪問している。

### 3. 米国がFTAの内容変更を検討

- 5 月 11 日、米国政府貿易担当者は、5 月 10 日に表明した新貿易方針に基づき、既に締結済の 4 国間(コロンビア、パナマ、ペルー、韓国)との間の FTA の内容を変更する予定である旨を発表した。

## III. 石油その他の資源セクター

### 1. EcopetrolがベネズエラPDVSAと天然ガス輸送にかかる契約に合意

- 5 月 14 日、Ecopetrol は、現在建設中のコロンビア-ベネズエラ間を結ぶ天然ガス輸送パイプライン(2007 年下期完成予定)について、PDVSA と 20 年契約を結んだと発表した。
- 本契約の主な内容は、操業開始から 4 年間はコロンビアからベネズエラにガスを輸送し(初年度 50Mf3/d、2~3 年目 150Mf3/d、4 年目 100Mf3/d)、5 年目以降はベネズエラからコロンビアへ 150Mf3/d(年間平均)のガス輸送を行う計画。
- これに伴い、2007~2008 年にかけて、La Guajira 地区で圧縮能力拡大のため新たに 1.4 億ドルの投資プロジェクトが計画されている。La Guajira 地区では Chevron が Ecopetrol と共同で天然ガスの生産を行っている。

以上

本レポートは発表時の最新情報に基づいて作成されておりますが、情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、レポートの内容は今後予告なしに変更されることがあります。予めご了承下さい。